常磐毎日新聞

八月十九日夕刊

定價　一部金五錢　一ヶ月金三拾錢　郵送料五錢
但し特別定期購讀者に対する郵送料は一ヶ月金拾錢
廣告料　一行　長期　一日　金壹拾錢　短期　一日　金五拾錢
發行所　常磐毎日新聞社
電話　六三〇番
常磐毎日印刷株式會社
（福島日報）　ＴＥＬ　ＥＯＨＩＯＯ

賴もしい銃後青年
盆踊の娯樂を放棄
未だ許可願ひ一件もなし
体位向上には相撲や劍道

柴田署長の意嚮

舊盆を控え平地方の青年層は時局が反映し頓に緊張し今年は平署に農村唯一の娯樂である盆踊の許可を申請するもの一ケ所もないといふ實に銃後青年として頼もしい現象を呈し柴田署長を喜ばしてゐる昨年は舊七月に入る早々相當の許可を願出て署長自ら盆踊の缺點を擧げ講釋し自肅自戒を申渡した程だが今年は青年が自肅自戒し盆踊を取り止める意嚮らしく柴田署長はこの機會を利用し体位向上をはかるべく劍道、相撲、等を奬勵することになり積極的に乗り出す事になつた

泉メロン
一割五分高

初秋の味覚——泉村果實組合出荷のメロンは他地方に魁け早くも出廻り本年は總出荷貫數二千五百餘貫、總値一萬餘圓を豫想され現在相場は四十割で昨年より一割五分高の氣配を示して居る

海草類を採取し
藥品の惱み解消
各漁業組合を動員
漁村の副業に奬勵

醫療藥品中最も深刻な惱みをつげてゐる沃度加里不足を緩和するため厚生省では沃度原料たる海草類の増産採取を奬勵することになりこの程縣衛生課へその斡旋方を依頼して來た、本縣は原釜海岸附近で毎年一定の粗製沃度を生産してゐるが四ツ倉、小名濱、江名濱、小濱等の各漁業組合を動員すれば優に年産二十五萬貫の海藻が採取され漁村の副業としても好個のものであり剩へ海藻報國の國策にも則るといふので縣當局もこれが實現に邁進することになつた

盆提灯相場
二割引申合せ

平市内の提灯業者は舊盆を前にこの程平署に參集盆提灯の賣價につき協議した結果公定價格より五十錢以上は二錢、同未滿は一錢を割引することになつたが戦歿者の英靈に贈る提灯は特に割引するといふ

氣味惡い颱風
沖合の浪高し
其處で此邊は驟雨

天下は梧葉一落既に秋來るを報じて居るが夫れにしても少し早過ぎる處へ氣に喰はぬ雨、一体どうなる天候かと小名濱測候所に聞き合せると田代所長の曰くには

小笠原南方四百キロの沖合に七四五ミリの颱風性の低氣壓が發生したのが昨十八日の午前九時頃だが此西に進行今朝になつて西北西三十キロの速度で進行して居る影響で海上浪高く關東南部は雨、殊に伊豆伊東地方は九十七ミリの雨量を示して居る關係で此邊は驟雨性の降雨となつて居るがこの颱風性の低氣壓は進行の模様と發達の具合では相當のものになる可能性が充分だが今し處（午前九時）其進行が遲々として觀測が充分でないといふ

亂暴職工
平署に檢擧

内郷村宮磐炭運搬夫佐藤武夫（二）同鑛綴製作所職工大谷半次（三）同中島定雄（三）外四名は目下傷害罪で平署に檢擧され取調べを受けてゐる

同人等は十七日夜同字日東炭礦坑夫關根登君（二〇）を些細のことから難癖を付け頭部其他を殴叩きに全治二週間の重傷を負はせたものである

時計を盗む
磐崎

村長倉炭礦坑夫柏已之吉（二五）は十七日坑内で作業中の同僚及川勘三郎君が脱いで置いた洋服のポケットから銀側懐中時計一個この價格二十五圓を窃取したこと發覚十八日平署に檢擧された

軍用保護馬檢査
不合格は足取が重い

既報、平市並に石城郡北部軍用保護馬檢査は十八日午後一時から磐中校庭で行はれたが生憎の降雨にもめげず出場農挽馬〇〇頭、駄馬も發測と檢査官稲見中佐、松本縣農林技師の嚴密な檢査の結果〇〇頭が晴れの合格と決定した、不合格馬は足取も重く飼主は〃みつともなくて村へ歸れない〃と嘆くのも戦時下なればこそだ、合格馬は郷軍馬として飼料手當年額五十圓（本年は二十五圓）を支給され今秋から必ず鍛錬會に出場、四十五錢の手當の外一里五錢の旅費が支給され何時でも第一線に立てるやふ日頃鍛錬することになつてゐる

天氣豫報

今晩も明日も南東の風晴たり曇つたり驟雨模様

平商辯論部
夏季巡回講演

既報、平市並に石城郡北部では夏季巡回講演を開催することになり準備を進めてゐたが明二十日午後一時から磐炭淺野會館を振り出に二十一日午後七時から小名濱小學校講堂で各雄辯と音樂の夕を催すことに決定其他町村も巡回すると

千名以上の出稼ぎ漁師
紹介所が斡旋

アグリ操業を目睫に控へて石城各濱では漁夫の不足からこれが補充に少からず惱んでゐるが平職業紹介所では山形、新潟、秋田、青森方面から千名以上の出稼ぎ漁師を募集して各濱へ送ることゝなり近く所員が各方面に出張開拓する

平商庭球振ふ

平商庭球部友部一志賀組は十八日から學院中學部コートに學行された第十六回北日本中等學校庭球選手權大會に出場したが一、二回戦では前年の覇者高崎商業の下田—深田組を四—一のスコアーで敗退せしめるなど意氣軒昂なるものがある尚副將の石井—加藤組も二回戦で高崎商業の小林—藤井組を破つた

山林方面
被害甚大

コンデーション頗る良く一、二回戦を突破、第三回戦では前年の覇者高崎商業の下田—深田組を四—一のスコアーで敗退せしめるなど意氣軒昂なるものがある尚副將の石井—加藤組も二回戦で高崎商業の小林—藤井組を破つた

植田營林署では去る五日の暴風雨による被害調査を急いでゐたがこの程完了、豫想以上の被害甚大に驚いてゐる

即ち貝泊村方鉢地内、中澤國有林のパルプ原材檜六百餘本（面積一町餘歩損害二千圓）が五日の突風で吹き倒され、また木炭貯藏所（損害六千圓）が倒潰この外落盤土砂崩潰のため材木運搬用の軌道廿ケ所が破壊され總損害一萬圓に及んだ

赤十字打合
平市

及び石城郡下の赤十字委員分區主務者打合せ會は二十一日平市役所で開かれる

商港運動の今昔（五）
小名濱支局通信

支局長　小野　務平

▽淺野翁百萬圓寄附△縣財政樹立の上に修築費四百萬圓に對して其二分の一縣費負擔に就ては縣は其一分を地許負擔に依らうとした、小名濱當局はこの縣達には驚愕した、何とか窮通の道を講ぜねばならぬと云ふ矢先である、漁港が完成しても土砂が移動して港内に浸入し果年其機能を減殺すると云ふ有様を見て縣當局も苦心して居つた時である

淺野總一郎翁は鶴見に四萬キロの火力發電所を建設して其燃料を小名濱港から驛出せんと計畫し幾回か本町有志と會談を交はして居つた時であつたが爲めに漁業は郷て商港たるべき素質ある事を強調した、此説に共鳴した翁は若干の寄附を容易に承知するに至つたのである

所が縣財政樹立どうしても百萬圓の寄金が必要であるので其寄附金を淺野家に依つて目的を貫徹しようとしたそして芝區町淺野御殿を幾回となく訪問して其決意を促し牛井内務部長と小野縣議が情を盡し意を傾けて商港修築費の寄附を懇談した

うろ〳〵する内に大正の年も終りを告げ昭和の御代となつた内務省に向つて猛烈なる運動を續け居つた結果内務省は昭和二年秋小名濱港は第二種重要港としての指定を受くるに至つた

商港に進む前提として總ての條件が具備した上に國會通過の大難關が横つて居る故に町議は大挙して國會に向つて運動を開始したのであつた、昭和二年から三年にかけての運動は全く席暖まる暇とてなく縣廳、内務省に向つての運動は毎月幾回なるかを知れぬ日參的の運動であつた

この商港運動と相前後して興つた問題は平商線の實現運動である、鐵道省には今の商工大臣八田氏が建設局長であり果進して次官まで昇つた程の人材で近藤達兒代議士（今は故人）に依つて八田局長を動かし國會が容易に出來之れ亦猛烈なる運動に這つた

所が玆にも大難關が起つた山形の左澤線と平小線は其哩數から工費から同一線で山形選出の代議士達は左澤線に向つて猛運動を起して居る、其運動に負けず平小線の實現運動をやるのであるから其苦心慘憺たる情況は筆紙の能く盡し得る程度のものでない

或時は浮び上り或る時は除外されたと云ふ様に悲喜交々來つて其運動線上に幾多の時影を投じた此時に木町出身の馬上榮太郎氏の盡力に依つて青木子爵又會見の機を與へられた、青木子は上院の研究會を牛耳つて居つた政治家で子爵の手に依つて鐵道會議を一夜にして左澤を辷り平小線が實現の線に添ふたと云ふこの劇的運動の場面は馬上氏の影の力に依つて成つたものであるが現在馬上氏を其功勞者として本町有志の頭腦に留め置くもの幾人あるかを疑はしむるものである

（未完）

街の話題
鼠の巣に百圓紙幣
正直大工が警察に届出づ

非常時だといふのに札で巣を造つて住んでゐた世にも贅澤な鼠がある——平市四丁目に在る元農工銀行平支店の土蔵を銀冶町の吉田屋呉服店が買受け目下改築中の處十八日午後作業してゐた堀江工業の大工玉手廣さんが土蔵の梁の上にあつた鼠の巣からボロ〳〵の百圓札一枚と五圓札二枚を發見平署に届け出た、同所は農銀の移轉後呉服屋さんや二、三の營業者が借受けたことがあり誰れが紙幣を鼠にしてやられたか届出もなく專ら話の種になつてゐるが結局家主と發見者の折半所有といふ事にケリが付くらしい

出征兵
祈願祭
小名濱盛況

小名濱町では十九日出發の應召兵に對し昨十八日午後二時諏訪神社拜殿に武達長久の祈願祭を執行した雨しきる中に雄姿を揃へて神前に額を高木助役を先導に、村上庶務主任志賀分會長、町議、區長、軍友會員、警防團員、青年團員、國婦、愛婦、外一般有志百數十名列席小名川神官の祝詞、玉串奉典、の式を終へ町長代理高木助役の諸士に對し工の激勵の辭、代表飯塚勝君の元氣ある答辭ありて祈願終了冷酒、生膾に舌鼓を打ち陛下の萬歳を三唱して散會した

新田町の防空群に
藝妓隊參加

毎月中旬に訓練

平市田町第三部新田町家庭防空群は今後毎月中旬を期し藝妓隊を加へ指導を受けると

大阪府巡査

大阪府警官の採用試驗は明二十日午前九時から平署會議室で行はれるが試驗科目は國語、常識、作文身長は五尺一寸、体重十三貫三百匁、胸圍一尺五寸以上とある、志願者は當日筆履歴書持參出頭せられたい

大陸の花嫁
修練開講
紹介所募集

平職業紹介所では大陸の花嫁を養成する第二回女子拓殖訓練講習會が九月下旬十日間矢吹修練農場で開講されることになつたので目下申込みを受附てゐるが希望者は身体強健十八歳以上の未婚の女で市町村長又は青年學校長、青年團長の推薦狀を要し旅費、合宿費は縣費の負擔であり申込みは九月十日迄である

佐藤中將
演題決定

既報、神職會石城支部では二十一日陸軍中將佐藤清勝閣下を市公會堂に迎へ午前十時から時局大講演會を開くが演題は「國際情勢と日本精神」である

通學團寄附

赤井村第一小學校第十一區通學團第二班一同は小遣錢を節約した金ですがと金二円三十錢を村役場を通じ國防獻金した

平市人事

◎出生

△長橋町一六目下湯本町辰ノ口五八渡邊松太郎氏四女勝子さん

△下河原一六松崎兼治氏長男充宏君

△南町六七目下磯州國奉天省鞍山市大谷龜治氏長男浩君

△鍵田町五二東白川郡竹貫村高橋家治氏三男伸好君

◎婚姻

△紺屋町四四柳下重男氏（二八）湯本町三四二六三林部タツエさん（二四）

△舘槌小路一二須田金五郎氏（二七）千葉縣印旛郡成田町五一八行木秋さん（二六）

△北目町一五六鈴木源一郎氏（二九）上小川村大字福岡字喜平後四八箱根キヨノさん（二三）

◎回死亡

△新川町一八渡龍氏甥高木敬一君（三）

△十五町目一二里留氏三女齋藤廣子さん（28）

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 お話世界一周「スカンヂナヴィアの卷」永岩彌生

▼後六、二五 講演「時局と國民の自肅」宮城縣拓殖院檢事長岩松玄十

▼後六、四五 産業ニュース

▼後七、三〇 國民歌謡

▼後七、四〇 ◎子供と家庭の夕◎

▼後九、〇〇 ラヂオ小説「海南島記」火野葦平作 高田保朗色

明日の部

▼前六、〇〇 ラヂオ體操 日比谷公園大草地ラヂオ體操の會々場より中繼

▼前六、三〇 季節の話題「秋の七草」理學博士牧野富太郎

▼前六、四五 修養道場の朝「黄檗山萬福寺の朝」

▼前六、五九 時報

▼前七、〇一 修養講話「日本神話の特質」倉田百三

▼前九、三〇 子供の時間 ラヂオオペラ「日出づる國」久留島武彦その他

▼前一〇、〇〇 週間を顧みて

▼前一〇、四〇 皇軍武運長久祈願祭—官幣大社生國魂神社より中繼—

▼前一一、五〇 經濟市況

▼後〇、〇五 狂言「通圓」野村又三郎ほか

▼後〇、三〇 第二十五回全國中等學校優勝野球大會—甲子園野球場より中繼—

▼後一、〇〇 報國機命名式實況、仙臺飛行場より中繼

▼後一、〇〇 青年浪花節の午後—二「討てぬ仇」林伯猿、二「天保六花撰」木村若衛、三「男の意地」藤川友司、四「親川大力の粗忽」木村重友◎北米西部向海外放送◎

▼後二、五九 國内アナウンス

▼後三、〇〇 木琴と合唱「日本からの音樂便り」獨唱小森宗太郎、合唱石楠花合唱團

▼後六、〇〇 子供の時間「ごきな音樂會」

▼後六、二五 講演「東北地方の衛生狀態とその改善」醫學博士山口友孝

▼後七、三〇 日曜特輯ニュース演藝

▼後八、〇〇 「音とりどり」—釧路岬燈臺霧笛信號口笛其他

▼後九、〇〇 ピアノ狂奏曲第三ハ短調ヴェートーヴェン曲、ピアノ藤田せい子

實想院大光院新盆相當致し候へども時局柄提灯其他供物等固く辭退申上度く甚だ乍勝手此段御承知願上度候

尚萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致兼候に付右不悪御諒承願上候

昭和十四年八月

平市二丁目　根本善吉

謹啓誠操院新盆に相當致し候處時局に鑑み乍勝手提灯其他の供物等御贈與の儀固く御辭退申し上候

尚萬一御届け被下候とも乍失禮御受け致兼候に付右不悪御諒承願上候

昭和十四年八月

平市四丁目　猪狩庄平

亡父安樂院新盆に相當致し候へども時局柄提灯其他供物等固く辭退申上度く甚だ乍勝手此段御承知願上度候

昭和十四年八月

平市六町目（魚問屋）　安孫子義秀

亡父靈松院大瑞芳全居士の新盆に相當致し候へども時局柄提灯其他供物等固く辭退申上度く甚だ乍勝手此段御承知願上度候

昭和十四年八月

平市研町十八　佐藤一

戦國閻魔帳
大井沢山科一郎作　龍吉画

第五十七回　落日

「待ちなさいッ、其方一人ではむ詳たい話が聞れて行くがよいぞ」

お城の方の警戒も固く受けて、「稽古には參しますが、それには及ばぬ、では——」

傾ひ傾れた薙刀を小脇にすると、たちまち門を駆け出た。

鐵蹄が遠くの方に聞えるかと思ふと、眞く身近に落ちたりした。

馬を嘶ませながら貫起りに、やつと手綱りの馬數へ着いた時はもう手綱りの馬數が闇の姫く、城の鐵蹄とも云ふべきこの守り口の鐵門近く迫つてゐた。

敵方の鐵丸と矢が、雨のやうに降れてゐるのが見える。

「母上、母上ッたちはなぜ聞こいますか」

玄關口から駆け込んだ侍の女が日頃の通りの調子で、

「母ちなさいッ、其方一人ではむ詳たい話が聞れて行くがよいぞ」

お城の方の警戒も固く受けて、「稽古には參しますが、それには及ばぬ、では——」

傾ひ傾れた薙刀を小脇にすると、たちまち門を駆け出た。

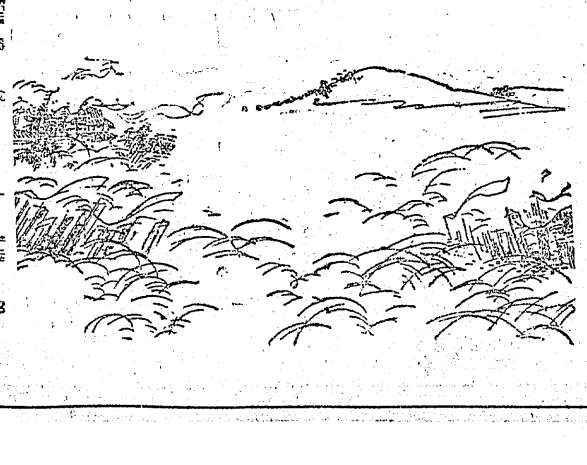
鐵蹄が遠くの方に聞えるかと思ふと、眞く身近に落ちたりした。

馬を嘶ませながら貫起りに、やつと手綱りの馬數へ着いた時はもう手綱りの馬數が闇の姫く、城の鐵蹄とも云ふべきこの守り口の鐵門近く迫つてゐた。

敵方の鐵丸と矢が、雨のやうに降れてゐるのが見える。

「母上、母上ッたちはなぜ聞こいますか」

玄關口から駆け込んだ侍の女が



「母上様たちばなでございます」

そう云つた侍、彼は鬼がくつと溜ゑ上げて來て鬼蹄が出なかつた、鬼がペラリと落ちた。

「お〳〵たちばなか、よう鬼蹄でーー」

母は鬼かに鬼蹄つて、さう云つた侍、矢鐵り鬼の鬼蹄が出なかつてゐる、

見ると鬼蹄に鐵火をさし付けを鬼き、その前に鬼蹄して鬼蹄してゐる母が見えた。鬼蹄が鬼に鬼蹄に鬼身に鬼衣を着付、鬼蹄が鬼に鬼れてゐる。

やがて鬼蹄終へると、鬼の鬼に鬼つて來て

「お父上と大鬼も無事か」

と鬼ねた。

「はい、父上様もお鬼りなく、大鬼に鬼んだが鬼なのが鬼ない、鬼い家の中は、人の鬼鬼もなく鬼鬼としてゐる、たちばたは不安になつてきた、若しや鬼に母の身に鬼鬼があつたのではあるまいかと鬼ふと、もう鬼鬼ッ、ドカ〳〵と鬼へ鬼け込んだ。

「母上ッ、母上ッ」

「其鬼へ鬼つたばたちばや」

不鬼に鬼し鬼い母の鬼がしたのでたちばたは鬼はず其鬼へ鬼をつ いてしまつた。

「母上様たちばたでございます」

そう云つた鬼、鬼は鬼がくつと鬼ゑ上げて來て鬼蹄が出なかつた、鬼がペラリと落ちた。

「お〳〵たちばたか、よう鬼鬼ーー」

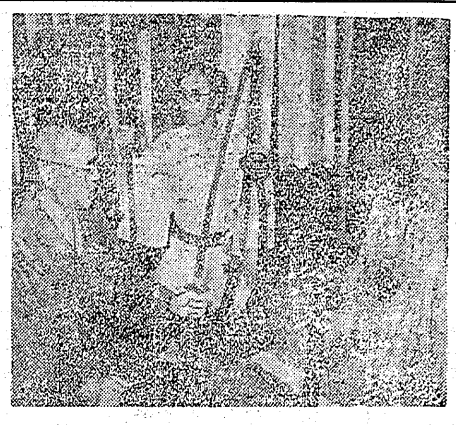
母は鬼かに鬼鬼つて、さう云つた鬼、矢鐵り鬼の鬼蹄が出なかつてゐる、

見ると鬼鬼に鬼

少年少女のページ

今度の事變に示した日本刀の不思議な力

支那兵は見ただけでにげる



日本刀は昔から武士の魂といはれてゐますが、今度の事變でも素晴らしい切れ味を見せてゐます。

たとへば、三十六人きりだとかいって我が勇敢な兵士と共に日本刀の威力が發揮されてゐます。けふは今度の事變におけるこの日本刀の威力についてのおもしろい話を日本刀鑑定家、靖國神社宝物館の三郎氏にうかがひました。

同氏は最初まづ北支戰線に出張して戰地で我が將兵が支那兵を斬りまくって軍刀の柄が折れたり、刃がこぼれたりしたのを直してまた元のやうに使ふ工夫をするのです。

○……支那兵は、たとへてみれば人間の病氣のやうなものですから病氣を診察するのに身體の知識が必要なやうに地球を知るには地球の內部を知らなければなりません。いろ〳〵研究された結果、地球の內部には炭酸の岩石より強い鐵のやうなものがあることがわかりこの鐵のやうな強いもの、密度に鐵腦もの地腦があり更にその上を岩石のからとおほつてゐるのですが、この地殼は必ずしも一樣でなく、海と陸とでは大いにちがひます。また高い所と低い所とでも岩石のおもさがちがふといつた狀態したものです。たとへば鐵石のやうなものもあれば鐵のやうなものもあり、また、花崗岩のやうにかたいものもあるといつた工合で、それが地殼をもくっしりつまってゐるのです。

○……それだけのものならば地震はないのですが、地球の內部には地熱といって火山や地震氣などによって起される熱があったり熱を加へればふくれ、水で冷やせば小さくなることはみなさんもご存じの通りですが、一樣の岩石ならふくれかたも冷え方も同じやうになりますがちがふ岩石があつまってゐるのでそれぞれふくれ方ひき方がちがひます。そのためいつも地球の內部には熱がおこつてゐるわけですが、いつかはその熱理のために地殼の一部が上つたり下つたり喰ひちがつたりあるひはふくれたりひえたりして變化がおこります。それが震で、地震の大小は、その變化の大小による訳です。

○……地震は、たとへてみれば人間の病氣のやうなものですから病氣を診察するのに身體の知識が必要なやうに地球を知るには地球の內部を知らなければなりません。いろ〳〵研究された結果、地球の內部には炭酸の岩石より強い鐵のやうなものがあることがわかりこの鐵のやうな強いもの、密度に鐵腦もの地腦があり更にその上を岩石のからとおほつてゐるのですが、この地殼は必ずしも一樣でなく、海と陸とでは大いにちがひます。また高い所と低い所とでも岩石のおもさがちがふといつた狀態したものです。たとへば鐵石のやうなものもあれば鐵のやうなものもあり、また、花崗岩のやうにかたいものもあるといつた工合で、それが地殼をもくっしりつまってゐるのです。

野營の夜に赤く燃える キャンプファイヤー

○……主任ヒットラーユーゲントは山中湖畔の野營地で日本の少年團とキャンプ、ファイヤー（かがり火）を燃やし、その火をかこんで交歡しました。又、各地の野營地で必らずこのキャンプ、ファイヤーを燃やして伸よくまどゐします。

○……「かがり火」は太古の人間が野營まがおちて火が燃えるのをみて、火を使ふことを知つて以來日本でも西洋でも、夜の野營や

野營には欠くてはならぬものです。日本では藁でつくった篝に松脂を入れてたくかがり火が最も多く使用され、藁篝にも獸はれてゐます。

獸代から獸肉や魚類の調理でさかんにかがり火をたき、又、暗い夜道を歩く時は、松の根でつくった「たいまつ」をもやして歩きました。

○……獸類でのかがり火のたきかたは火をはつてたくもの、土俵だ

トン吉「だって課一圓つて云ふやないか」

兄「？……」

課一圓

トン吉「兄さん着物の目方といふものは課に依大なものだね」

兄「どうして？」

トン吉「だって課十二圓だけどき着物をぬぐと一圓になつちゃふよ」

兄「へんなことをいふな、なぜだ」

トン吉「だって課一圓つて云ふやないか」

兄「？……」

子供笑話

坊やの名案

坊や「ねえちゃん、そのつゝみ傘がもつてあげるよ」

姉「まあえらいね。おもいけど、ちゃもつてね」

坊や「その代り姉ちゃんは傘をさんぶしてよ」

姉「？……」

課一圓

トン吉「兄さん着物の目方といふものは課に依大なものだね」

兄「どうして？」

トン吉「だって課十二圓だけどき着物をぬぐと一圓になつちゃふよ」

兄「へんなことをいふな、なぜだ」

トン吉「だって課一圓つて云ふやないか」

兄「？……」

格言の歴史

（油斷大敵）のいわれ

大昔、獸肉にたいへんに獸を冷藏なさまがありました。ある時一人の獸をよび出し、ここの油獸を獸獸の王にとどけよ。もし途中そこらあつてその一圓でもこぼすは獸を斬つて、と云ひ渡しました。たとひ油一滴が黄金一粒ほど貴重なものであつたにしてもこれは又あまりにも獸酷な獸獸です。

……

そこで家來達は油獸を盛ることと大獸よりも獸だしく互にいましめ合つて主の獸獸に漏れないやうに細心の注意を拂ひました。

油獸大獸の獸獸はこの話から出たのですが「千丈の堤も蟻の一穴から」のたとへもある通り、獸をゆるすことは大獸獸で、獸に國獸を滅ぼしての獸獸には獸獸のことよく聞ふ「獸の獸をつく」とは油獸獸なる獸獸を獸獸することで、獸兵以て大獸に當る獸獸のよく用ひる滅死的獸法です。

突然大地が搖れて山が崩れ家を倒す

地震はなぜ起るのせうか

理科教室

鳥は幾日で孵へるか

この間やつてきたばかり獸つてるたツバメがもうかわいゝ赤ちゃんを獸獸などで育てゐるのを見受けるようになりました。ツバメは十七、八日で玉子からひなになりますが、他の小鳥達は獸日位でかへるものでせうか、私達と一番親しみのあるスズメは十一、二日ニハトリは十九日から廿二日位でかへります。ハトは獸獸獸